

せいらんそう

社会福祉法人
 会誌
 号
 報
 第 1 3 号
 2011年2月発行



コラボによるクリーン・グリーン作戦

青嵐荘養護老人ホーム・特別養護老人ホームでは、地元の高校生、ボランティア団体、企業、行政とのコラボレーションで、市道の清掃、除草作業、花壇の設置作業を行いました（関連記事5頁）

もくじ

CONTENTS

40年目の新たな事業

- 茨城県地域生活定着支援センター・・・2
- 芳香会社会福祉研究所・・・3

おかげさまで四十年

- 実務研究発表会・・・3
- チャリティコンサート・・・3

高齢者施設トピックス

- 青嵐荘養護老人ホーム・・・4
- 青嵐荘ケア・アシスタンス・・・4
- 青嵐荘特別養護老人ホーム・・・4



地域の皆さまとともに

- 車いす寄贈 for Viet Nam・・・5
- 社会参加に向けて・・・5
- 冬の夜空の天体観測会・・・5
- 若人のちから・・・5
- 芳香会活動報告・・・6
- 芳香会スケジュール・・・6
- 編集後記・・・6

四十年目の新たな事業

茨城県地域生活定着支援センター 開所式

平成二十二年十二月十七日（金）に芳香会地域交流ホームにて「茨城県地域生活定着支援センター」開所式を執り行いました。

開所式には茨城県保健福祉部、水戸保護観察所、水戸刑務所、古河市福祉部、保護司会、福祉専門職団体等を代表される皆さまにご臨席を賜り、心強いご祝辞を賜りました。

その後、水戸刑務所主席矯正処遇官・新井様より「矯正施設における入所者との関わり合いから」をテーマにご講話を賜り、刑事司法に関する流れや普段耳にすることのできない矯正施設の実情につきまして、とても興味深いご講話をいただきました。



また、当センターの機能と役割について、スライドにてご紹介するとともに、当法人の設立四十周年記念事業として作成した「地域で暮らす」のDVD上映を行いました。

当センターの活動は様々な「生きにくさ」を抱えた方たちへの支援であり、始まったばかりの事業です。まずはこの事業を多くの方に知っていただくことが重要であるため、引き続き広報活動を積極的に行い、ご理解、ご協力をいただきながら福祉ネットワークの構築に取り組んで参ります。

地域生活定着支援センターについて

芳香会では、平成二十二年十一月一日付で茨城県から「茨城県地域生活定着支援センター」を受託致しました。本事業の概要についてご紹介させていただきます。

【地域生活定着支援センター設置の背景と役割】

国では平成十八年に矯正施設（刑務所、少年刑務所、少年院等）の現状について各種統計調査を行い、その結果、主に高齢・障害等を理由として福祉の支援を必要とする人たちが大勢いることが明らかとなりました。しかし、矯正施設退所後に福祉の支援が受けられず、負のスパイラルに陥り再犯に至る人たちが多いことも明らかとなりました。そのため、平成二十一年七月から法務省、厚生労働省が連携し、矯正施設を退所した後に自立困難な高齢者や障害者を必要な支援（福祉サービス）に繋ぎ、司法と福祉を繋ぐ架け橋として各都道府県に「地域生活定着支援センター」の設置を進めています（平成二十二年十二月一日現在、三十七都道府県に設置済み）。

【地域生活定着支援センターの業務内容】

一・コーディネート業務

高齢または障害を理由として、保護観察所から「特別調整者」として調整依頼のあった者に対し、生活保護等援護の実施者となる市町村との調整や受け入れ先となる福祉施設や住居の調整・斡旋、また福祉サービス利用申請の補助を行います。

「特別調整者」とは、高齢（概ね六十五歳以上）または障害を有すると認められ、矯正施設退所後に住居がない者、また特別調整の対象となることを希望している者などのことです。

二・フォローアップ業務

コーディネート業務の対象者で既に矯正施設を退所した者に対し、受け入れ先施設等へ訪問し生活状況の確認を行ったり、施設に対し支援に関する助言等を行います。

三・相談支援業務

過去に矯正施設等を退所した高齢者・障害者本人及びその家族や、その他関係機関に対し、福祉サービス等の利用に関する助言、その他必要な支援を行います。

四・その他の業務

各関係機関の会議、保護観察所主催の連絡協議会への参加、運営推進会議の開催、啓発活動等を行います。

この事業はこれまで福祉制度の網の目から漏れてきてしまった人たちに対し、必要な福祉の支援を提供することを通して、誰もがその人らしく暮らすことができる社会の形成を目指すことを目的としています。このような、日々の生活の営みの中で適切な支援を得ることができれば罪を犯すことを防ぐことができる人たちの「生きにくさ」をご理解いただき、支援を必要とする人たちに対して地域の中で福祉ネットワークの構築ができるよう、地域の皆様方、関係機関の皆様方にご協力をいただきたいと思います。また、円滑な事業の推進に向け、ご指導、ご鞭撻賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

芳香会社会福祉研究所

【社会福祉研究所設置について】

芳香会社会福祉研究所

所長 宇留野 功一

本年四月から「芳香会社会福祉研究所」(以下「研究所」)を正式に発足させます。

研究所設置に当たっては鹿兒島国際大学高山忠雄博士(芳香会前監事)、筑波大学安梅勅江博士のご指導を賜りました。今後の研究活動にはお二人を始めとして、何人かの研究者にも加わって頂く予定です。現在は徳竹健太郎(筑波大学大学院博士課程院生)と酒寄学(ケア・アシスタンス相談課長/社会福祉学修士)の二名が非常勤研究員として研究活動と正式発足の準備を行っています。

研究所設置の目的は二つです。一つは私たちが自らの力で芳香会の新しい役割とあるべき姿を描き出し、実行できるようにすること。二つ目は研究の成果を広く世に問うことによって、社会の安定や一人一人の幸福達成のために寄与することです。

いま社会福祉法人は、長きに渡った行政の代替・受け皿としての受身の事業活動から脱却し、主体的な意思決定とそれに基づく事業展開を行う組織への再構築を求められています。しかしこの実現には様々な情報収集と整理・分析、予測などが必須条件なのですが、現在の芳香会にはその能力が有りません。

そこでその機能を研究所に持たせることにより、前記の研究所設置の二つの大きな目的を達成したいと考えています。

おかげさまで四十年

実務研究発表会

【四十周年記念 実務研究発表会に想う】

青嵐荘路のとう舎 施設長 小倉喜市

芳香会四十周年の記念事業として開催された実務研究発表会に参加致しました。他法人の方々、法人内の多種の施設から日々の業務の中での実践、研究についての発表を聞きながら感じたことがあります。

一つは、実践、研究したことを今後どのように実務に結びつけていきたいのか、もう一つは、実践報告のみになっていないかを注目して聞きました。

実際に行っている内容はどの発表も素晴らしく、楽しく聞かせていただきました。しかし、報告のみで「研究」にふれない発表がいくつかあったように思いました。実務を研究し、それを実践することは、時間のかかる作業で非常に難しいことだと感じます



が、題名が『実務研究発表』ですので、研究の部分にも触れられたらかなり参考になる発表が多くあると感じたことと、そのことが日々の仕事に役に立つのではないのでしょうか。

そして、その報告を聞いた方も、自分の施設、自分の仕事に役に立てることができると強く感じました。

チャリティコンサート

【四十周年記念事業の最後に】

青嵐荘養護老人ホーム 施設長 窪誠勇

「空に向かってまっすぐにきれいに声が伸びていき背筋に緊張が走る、これがやはりプロのソプラノ歌唱だ。」平成二十二年十二月二十七日(月)、芳香会四十周年記念事業第三弾のオーラスとして、チャリティソプラノ独唱コンサートが開催されました。

地元在住のソプラノ歌手、小林麻裕弥さんの素晴らしい歌声と、ピアノスト松山ゆりさんとで奏でるハーモニー、ゆったりとした時間の中にも出席者全員の心をとりこにした素晴らしいコンサートでした。明日から芳香会は、四十一年目の新たな一歩を踏み出すことになり、その勇気とパワー、そして新たな想いと情熱を私たちに感じさせてくれるにふさわしいお二人のコンサートでもありました。



「空に向かってまっすぐにきれいに伸びる」小林さんのソプラノのように、「柔らかくそれでいて力強い」松山さんのピアノのように、芳香会も私たち職員も、さらなる飛翔を目指してがんばります。四十周年記念事業のオーラスとして実施されたコンサートは、決意と熱い想いの中、盛大に幕を閉じました。



高齢者施設トピックス

生きがい支援 (養護老人ホーム)

「さあ、今日も仕事があるから忙しいしよ」と言いながら決まった時間に手帳をポンと職員室へ出し、名札を返して作業場へ向かっていく。当施設では見慣れた入所者の一場面です。平成十九年十二月から空き缶リサイクル活動が開始されましたが、徐々に参加者も少なくなってきたので、入所者の活動として何かできることはないかと模索した結果、空き缶に次ぐエコ活動として平成二十二年九月よりペットボトルのリサイクルを開始することとなりました。現在十名の方が参加されており、キャップ外し、ラベルはがし、ボトル洗浄、ボトル潰しといった一連の作業を分担して行い、業者へ搬入しています。活動参加者には手帳を配布し、作業内容に応じて設定した『エコポイント』を発行し、商品券に還元できる仕組みにすることで自ら行った活動に対する『評価』が明確になりました。活動が始まって数ヶ月ですが、やりがいを持って活動へ参加されている様子が伺え、活動も軌道に乗ってきたところであり、今後も継続し、少しずつ発展させながら入所者の『生きがいづくり』をしていきたいと思えます。



心と心の交流 (ケア・アシスタンス)

「言葉では上手に伝えられないけれど、文字にするときちんと表現できる」誰しもが一度は経験したことのある感覚ではないでしょうか。ケア・アシスタンスでは、現在、一部のご利用者や職員が、業務の中でケアプランに基づき『交換日記』を行っております。

独り言を繰り返し、思いを上手に伝えられないご利用者の周りから、次第に他のご利用者が離れていってしまうのを見かねた職員が、「何とか意思の疎通を図れないか」という一心で、鉛筆とノートをお渡ししたことが始まりです。

最初は、「隣のおばちゃんはお眠ってばかりいる」「今日のお風呂は気持ちよかった」といった日常生活における感想が中心でした。それに対し職員も、毎日一つずつ良いところを見つけ「字がとても上手ですね」「難しい漢字もきちんと書いてすごいですね」などと返事を書いていくうちに、次第に食事摂取や薬を飲むことを拒否した理由などを書いてくれるようになりました。すると、独り言の回数も減少し、他のご利用者とも仲良く過ごせるようになりました。心と心の交流ができるようになった時に、初めて人は他人を信用し、心を開いてくれることを身をもって経験しました。

そして、『交換日記』ブームを知らない若い職員にとっても、文章を書く鍛錬の場となっており、只今『交換日記』ブーム、拡大中です。



自立支援 (特別養護老人ホーム)

当施設では平成二十一年から「自立支援介護」の取り組みを行っています。自立支援介護とは、国際医療福祉大学大学院の竹内孝仁教授（医師）が提唱された自立支援理論に基づき、根拠のある介護を実践し高齢者の自立支援を確立するというものです。具体的には、身体メカニズムを理解した上で、水分摂取量の増加、栄養摂取量の増加、自然排便、運動量の増加を図り、心身両面の機能向上を支援するということです。

排泄介助というとおむつ交換を思い浮かべる方も多いと思いますが、自立支援介護においては「おむつ交換が排泄介助」のではなく、「おむつを外してトイレで排泄できるよう支援すること」こそが専門性のある介護であるとしており、特別養護老人ホームでもおむつ使用率〇%を目標の一つに掲げております。

当施設では自立支援介護を始めた当初、日中のおむつ使用率は六十四%でした。しかしご利用者一人一人の状態を考慮しながら自立支援理論に基づき、寒天ゼリーの導入や食事形態の変更等を行った結果、尿意が回復される方がいたり下剤使用率が減少したりと効果がみられ、昨年十二月時点において、日中のおむつ使用率が二十五%まで減少し、認知症の症状が軽減された方もありました。

今後も自立支援介護に取り組み、根拠に基づいた個別ケアを行うことで、ご利用者一人一人が人生をその方らしく穏やかに過ごすことができるよう努めて参ります。

地域の皆をまよとむに

車いす For Viet Nam

当法人では、十数年前に使わなくなった車いすをリユースし、タイバンコクへ手荷物として届ける事業を行っていました。また、継続できないことがとても残念であると考えていました。

そんな折、中央福祉医療専門学校のご協力により、交流のあるベトナムの障害児施設に車いすを届けていただけるといってお話をいただき、車いすを五台寄贈いたしました。今後も様々な方の協力を得て、この事業が継続できるよう心がけていきたいと思います。



社会参加に向けて



つくし園では、今年度当初より『生産活動』の一環として、ご利用者の作品制作技術の向上を図り、セルフプランにて「計画 制作 販売 反省」のサイクルを実践しております。

昨秋のつくば国際大学学園祭においては、二百三十九点の作品全てが完売することができました。こういった活動を知った地域の方々からも依頼があり、結婚式用のプチギフト百個を受注することになりました。作品は結婚式で配られ、参加された方々に喜んでいただけました。

今後もこのような機会を提供し、地域の一員として活躍できるよう支援してまいります。

冬の夜空の天体観測会

昨年十二月十八日(土)に地域の子供会の方々をお招きして『天体観測会』を開催しました。



雲一つない絶好の夜空の元、子どもたち十二名、保護者九名の方に参加していただき、大型の天体望遠鏡を使用して星空探検を行いました。職員もこれほど大きな天体望遠鏡を見るのも触るのも初めてのことでしたので、当日は天体に詳しい地元の方 四名に協力していただき、子どもたちに星の解説、宇宙の話、時間調整の際には手品まで披露していただき、たいへん盛り上がった観測会となりました。肉眼ではただの光にしか見えない木星

や月も、望遠鏡を通して見れば木星表面の様相まではっきり見ることができ、「なんだ、あの線は!」、「月のデコボコがはつきり見える!」と、冬の寒さも吹き飛ばすほど、子どもたちには大はしゃぎでした。次回は夏に企画したいと思います。



この天体観測会を催すことが出来たのも、天体についての深い知識と子ども達への優しい思いやりを持った地域の方々にお手伝いを頂いたからこそです。この場をお借りして改めて感謝の意を表します。

若人のちから

この冬、芳香会では、近隣の高校生若いの力を借りし、地域や施設の環境整備活動を行いました。

茨城県立三和高校

「グリーン・グリーン作戦ボランティア」

昨年十一月に、三和高校の皆様と協力していただき、結城地区の施設(養護老人ホーム・特別養護老人ホーム)近隣の市道の草刈や花植え等を行いました。普段は通学路や通勤に多くの職員や関係業者の方々が使用している道路です。



茨城県立古河第三高等学校 「年末環境整備ボランティア」

昨年末に、上大野地区三施設へ古河三高野球部の皆さん(先生を含め十九名)に環境整備ボランティアに来ていただきました。野球部の皆さんとお付き合いは平成十六年から続いています。普段手の届かない場所などを掃除していただくことで、ご利用者も気持ち良く新年を迎えることができました。



参加いただいた学生の皆様には最後に施設見学を実施していただき、福祉施設を知ってもらった機会にもなりました。今後も「コラボレーション」を大切にして活動に努めていきたいと思います。

芳香会活動報告

補助金受託報告

芳香会では、様々な補助金を頂き運営をしています。ここに平成二十二年度に補助を受け、実施した二つの事業をご報告すると共に、謹んで感謝の意を表します。

財団法人JKA 競輪補助事業完了のお知らせ

青嵐荘路のつぐみ舎

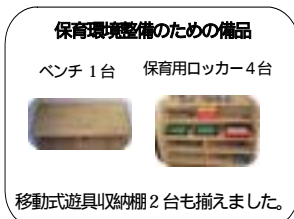
平成二十二年度競輪補助金の交付を受け、送迎車両の配備事業を完了しました。ご利用者様に対して、より安全で快適な送迎が可能となりました。これからも、より地域の社会福祉の増進に役立ててまいります。



こども未来財団
特別保育事業等推進施設助成事業

たま保育園

この度の補助金により未満児用トイレ内にベンチを設置しました。衣類の脱着がしやすくなったことで排泄時の衛生的にも良くなりました。また子ども目の高さで作ったもらったロッカーと細々した遊具の収納棚を設置し、整理整頓がしやすく、子ども達へ遊び方のルールを教えることができました。大切に活用させていただきます。



保育環境整備のための備品
ベンチ 1台 保育用ロッカー 4台
移動式遊具収納棚 2台も揃えました。

社用車安全運転実務研修会 茨城県西自動車学校

当法人の社用車は六十台を越え、多くの職員がその車両を使用した業務に携わっています。そこで職員が安全運転に心がけ、大きな事故に至らぬよう昨年十一月十二日(金)、「茨城県西自動車学校」において社用車安全運転実務研修会を開催しました。

視力検査等の適性検査では、昼夜の見え方の違いを実感し、日没の早い冬に備えて気持ちの引き締まる思いでした。指導員の方に運転を確認して頂く実車研修では、運転免許を取得した頃の間覚を取り戻すことができました。

茨城県西自動車学校職員の皆様、ご指導頂きありがとうございます。



芳香会スケジュール

- 二月一八日 第二回 役付職員研修会
- 二五日 第三回 苦情受付体制委員会 主催研修会
- 三月四日 新任職員研修会 & 第二回 中途採用職員研修会
- 五日 事業計画・予算(案)ヒアリング
- 九日 理事・評議員会
- 十九日 求人担当者研修会
- 中旬 新任職員入社式
- 二九日 春季 高校生インターンシップ & 在職者辞令交付式

編集後記

様々な事件や事故の報道を見聞きするたびに自分の心が、内向き傾向にあることを痛感します。九十九歳の詩人【柴田トヨ】さんの詩集が百五十万部売れたそうです。みなが共感できることは、文章の構成等相手の心に響くのでしょね。(光)

為校学園の後輩に代わり、編集委員に復帰しました。実は数多ある業務の中でも、会報の編集作業は芳香会の【思い】を実感でき、大切な業務の一つです。そして皆さまにも芳香会の【思い】をお届けできるよう、工夫を凝らします。(酒)

まだ寒さは続いています。春を迎え花粉が飛び始める季節です。茨城県では「爽春」という無花粉杉が開発されているそうです。杉花粉症がなくなる日がくるかもしれません。(川)

社会福祉法人 芳香会

発行責任者/法人事務局 編集/会報誌作成委員会
〒306-0201 茨城県古河市上大野698
TEL 0280-97-1027(代) FAX 0280-97-1112
ホームページ <http://www.houkoukai.or.jp>
メールアドレス honbu@houkoukai.or.jp



写真等の個人情報は、ご本人の同意を得て、掲載させていただいております。